

一月の縣議補欠戦に當りて、吾等は無産階級の爲りに多年戦つてきた同志花山清君を支持した。敵は政友民政
野合軍の候補である。麻生大財閥の番頭上野文雄であった。
此の戦に於て花山清君が勝利を済むことは、直接には
財閥麻生の打倒であり、間接には、將の田中友助内
閣の打倒の第一歩であつた。此の意義ある階級戦
争に於て、無産階級の政党である限り、階級的意味に
於て積極的には花山君を支持しなけれはならない筈
だ。それにも拘らず、彼等民憲党の諸君は、公然と
民憲党嘉穂支部の名に於て、棄権を宣言し、而して
吾等無産階級の政敵であるところの嘉穂政友会の徳本
部財閥麻生の門を三浦愛二君が叩いた。
何たる裏切りぞ!!

若くは、合同後の日本大衆黨内部に於て、彼等は果
して何を爲したか? 日本農民黨が合同政党的消
極的分裂主義者であるならば、彼等は合同政党的の
積極的分裂主義者である。昔々、日本大衆黨
の支部支部聯合組織に際し、自党自派に有利なる
組織を組織するたのみ、日本労働黨支部支部聯合
会合の諸君を盛んに買収した。吾等は階級的意
味に於て、断乎として民憲党との合同には反対し、
断えず、彼等と闘つて来た。併し、吾等は、永久に
日本労働黨の名の下に地方政黨として政治闘争を推
めたならば、吾等も亦、分裂主義者であり、解放戦
争の代表者である。

山嵐の如き、支那階級の暴風塵と戦ふ爲めには